

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知県立千種高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
所在地 〒465-8507 愛知県名古屋市名東区社台2-206  
E-mail kakitsubata@hotmail.co.jp  
Website http://www.chigusa-h.aichi-c.ed.jp/  
幼児児童生徒数 男子 425名 女子 661名 合計 1086名  
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～17歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自主自律」を学校理念として、ESDを「国際的な課題に目を向け、持続可能な社会を形成できる人材」を育成する最適な手法と捉え、ESDの実践を通して豊かな人間力を涵養し、異文化理解の力、協働できる力の育成を目標とした。

具体的には、授業、学校行事、課外活動を柱に、①国際理解に係わる学習、②人間力養成に係わる教育、③協働できる心を育む活動、さらには①から③を可能にするために、④教職員に理解を促す説明や依頼を行った。

### ① 国際理解に係わる活動

授業では国際教養科2、3年生の希望者を対象に「模擬国連」を15年継続している。これを選択した生徒は、年度当初に教師から国連の組織や憲章についての基礎知識を学んだ上で、3人組の代表団を作り、選んだ課題に関係する国を選定し、自分たちが代表を務める国に関して十分な調査を行う。一年間を通して、選んだ世界的課題について議論し、解決策を考え、最善だと思える策を決定していく。2年生は、仏、独、伊、西、中、韓の6つの第二外国語の中から一つを選択し、言語のみならず文化全般についても学ぶ。1年生は「異文化理解」において、外国の文化と日本の文化の違いや共通点を学

びながら、共生のあり方を学習する。

学校行事では1年生全員を対象に「異文化講座」を実施している。これまでアジア、アフリカ、南アメリカ、東ヨーロッパなどの様々な地域から人を招き、彼らの文化について紹介し、生徒と共に楽しめる活動をしてもらってきた。「国際理解講演会」では、1、2年生全員と3年生希望者を対象に、人権・医療・インフラ・持続可能な開発などに関して世界で重要な役割を果たしてきた講師を招き、その仕事の価値や、どのようにしてその道に入ったのかなどについて語っていただき、国際協力への関心を高めている。また、英語キャンプやイングランド研修では、英語のスキルアップのみならず、異文化への視野を開く機会となっている。

生徒の自主的な活動として、大学や高校への留学生やJICAの研修員などの海外出身者を招待し、生活様式に関する様々な考えを共有したり、ゲームを楽しんだりする異文化交流会を実施している。

## ② 人間力養成に係わる教育

講義形式の知識伝達型の授業も大切にしつつ、参加型の考え・判断し・表現する授業を各教科の様々な場面で展開している。また、外部講師をいろいろな機会に招き、進路講話、防災訓練、薬物乱用防止講話、海外進学説明会、リーダー研修、部活動でのミニ講演会などを実施している。多様な価値観に触れることで豊かな人格を形成してもらうと同時に、進路設計の参考にさせている。

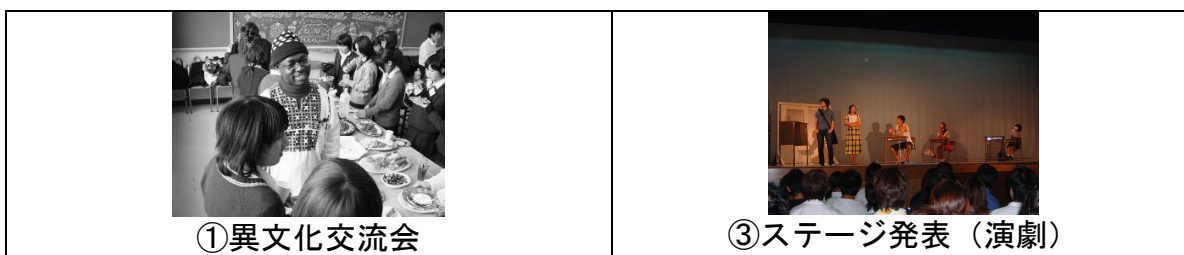
## ③ 協働できる心を育む活動

総合的な学習の時間では、生徒会を中心に学校祭の企画運営を任せている。1、2年生はクラス展示を、3年生はステージ発表（演劇）をそれぞれテーマ決めから役割分担、作業（練習）計画立案などすべてを生徒が主体的に取り組んでいる。物事を決めるときは安易な多数決にたよらず、とことん話し合うようにすることで、理解し合い助け合うことの面白さを学んでいる。

部活動では、顧問の指導の下、部員が新入部員勧誘、練習計画の工夫、練習の安全確保、練習や試合のふりかえりまで自主的に運営しようとする風土を保っている。

## ④ 教職員に理解を促す説明や依頼

年度初めの職員会議で、全職員に対してユネスコスクールの意味とESD、SDGs、GAPの説明をし、千種高校の毎日の活動がESDの理念を体現していることを理解していただいている。今年は、各教科に協力を依頼し、各教科の取り組みをESDカレンダーにまとめることができた。（添付資料参照）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

This Is Culture, Identity, From the UN News Centre, CLIL 英語で学ぶ 国際問題など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間は、生徒の自主的な学びを確保するために、秋の学校祭の実施に向けて、前期に時間数を集中させるなど工夫している。学校祭のテーマ決めの際には、ESD や SDGs で取り上げられているテーマについて周知し、参考にしてもらっている。教科横断的な取り組みはまだ十分にできていないのが実情である。今後の課題としたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

国際課という分掌が中心となり、各教科に ESD の趣旨を説明し取り組みを促している。また、部活動の一つであるインターアクトクラブ、生徒会の委員会の一つである文化委員会には、本校の ESD の取り組みの主な対象である「国際理解」というテーマに関する行事や企画に協力を依頼している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評議委員による全体的な評価は仰いでおり、その過程で国際課の取り組みが評価されている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

愛知県高等学校国際教養科連絡協議会にて本校の「国際理解」に関する活動を報告し他校の先生方に参考にしていただける内容を提供している。また、名古屋ユネスコ協会主催の活動報告会及び愛知県高文連主催のボランティア活動発表会で、インターアクトクラブが「国際理解」に関わる活動報告をし、他校の生徒たちの刺激となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

JICA 中部への施設訪問・講師派遣依頼、認定 NPO 法人アイキャンとプロジェクトの協働、名古屋国際センターへの講師派遣依頼・プロジェクト参加、特定非営利活動法人 愛・知・みらいフォーラムへの講師派遣依頼・プロジェクト参加、中部地方 ESD 活動支援センターとの協働企画、一般財団法人日本国際飢餓対策機構への講師派遣依頼・プロジェクト支援、ロータリークラブへの講師派遣依頼など様々な形で連携をとっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

今まではとくにありませんが、今年の4月に東北復興支援の一環として福島県を訪れた際に、現地のユネスコスクールとの交流を計画しています。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

本校は「国際理解」を主な切り口として ESD 活動に取り組んでいます。文科省や教育委員会などから紹介のある海外研修に積極的に参加を希望する生徒が増えたことや、海外に年間留学に出かける生徒が毎年十名を超えることなどは特筆すべきことだと思います。教職員の理解も深まり、短期留學生の受け入れに加えて、年間留學生の受け入れも毎年安定して5~6人います。また、英語キャンプやイングランド研修では、生徒の高い評価を得ていて、言語の習得だけでなく異文化に対する寛容性を高めることに貢献している。国際理解講演会と異文化講座においても国際協力や異文化に対して更に関心を高めたり、新たに関心を示した生徒が多数います。

- (3) 平成30年度の活動計画（200~400字程度）

ESD の趣旨が「持続可能な社会を形成できる人材の育成」であり、基本的な人間性の涵養と協働して課題に取り組める能力の育成が求められる以上、各教科・部活動、学校行事全般で ESD 的アプローチを進展していただけるように働きかけたい。今年度各教科に作成協力を依頼し完成した ESD カレンダーも参考にしてもらいたいと考えている。

「国際理解」に関する学校行事としては、国際理解講演会、異文化講座、イングランド海外研修、英語キャンプ、海外進学説明会、インターナショナルパーティーなどを計画している。

上記(2)⑦で述べたように、ユネスコスクールとの交流をはじめ、共同企画のようなものができるよう模索してみたい。